

「日本一けちなパパ」

國吉 桃美

わたしのパパは日本一けちです。あたらしいおもちゃがしんはつばいになっても、ぜったいかってくれません。いもうとがおみせで

「パパ、これほしい。」
と言っても、

「おうちにおさがりでもらったおもちゃ、たくさんあるでしょ。まだまだたのしめるよ。」とおへんじ。

パパとかいものについてもぜんぜんたのしくありません。おやつはかってくれないし、すきなキャラクターのグッズもかってくれません。かわりにパパがかうのは、ねさげのシールがついた、しょうみきげんギリギリのたべものばかりです。わたしはがっかりです。いえの中でもけちだらけです。パパはdenきをすぐにパチパチけます。パパといっしょにおふろに入って頭をあらうときも、

「シャンプーは少なめにだして、おゆであわだててからつかってね。」
と言ったたくさんつかうとちゆういされます。

ごはんのたべのこしもしかられるし、ティッシュや水のつかいすぎもおこられます。

「むだづかい、もつたないよ。」

が、パパの口ぐせです。

「パパはどうしてこんなにけちなのかなあ。」

とわたしは言うともママが教えてくれました。

「パパは新ぶんしょう学生だったんだよ。」

「新ぶんしょう学生？」

「新ぶんはいたつのしごとをしてお金をかせぎながら、勉強もがんばる学生さんだよ。パパは大学に行くお金がなくて、生かつかくるしかつたから、はたらいて大学に行ったんだよ。そして、ゆめをかなえたんだよ。」

ママの話をきいて、これまで、けちで口うるさく思ったパパがすごいな、かっこいいな、とかんじました。わたしは、いま、はたらいていないけれど、学校やならいごとだけで、とてもたいへんです。それにくわえて、はたらいて、しんぶんはいたつものとして、勉強をするなんてわたしにはできないと思います。

くろうしていっぱい力したパパだから、お金やものがありがたさが人一倍いわかってそれをわたしにつたえてくれてるのだと思います。そう考えると、パパが本を買わずにとしょかんでたくさん本をかりてくることも、あながあくまでふくをきつづけることも、毎日のせつやくも、みんなすてきなことに思えてきました。むだづかいしないことは、かんきょうにもやさしいことにも気づきました。

パパ、大切なことをたくさん教えてくれてありがとう。パパが、新ぶんしょう学生をして、おいしゃさんになるゆめをかなえたみたいに、わたしもど力してじぶんのゆめをかなえたいです。

パパは日本一の、大すきなパパです。